

# 日本地震工学会・大会－2012報告

大会実行委員会

## 1. はじめに

2012年の日本地震工学会大会が11月8日（木）から11日（土）に、最近開催場所として多く利用されている東京・代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」のセンター棟を中心に開催された。今年初の試みとして国際シンポジウムを同時期に同会場で開催した。大会の論文発表数は175件、3日間を通じた参加者は、423名（大会332名、国際シンポジウムが91名）であった。そのうち学生参加数は88名（大会のみ）である。学生を含む若手を対象に2009年から実施している優秀論文発表賞を今年も継続して実施した。また、大会、国際シンポジウムのいずれかに登録いただければ、どちらの発表会にも参加できるようにしており、時折、両者を行き来している様子などを見ることができた。

大会初日の夕方には大会と国際シンポジウム合同の交流会を催し、ベテラン、若手、そして留学生が親しく懇談し、様々な分野の参加者が交流を深めることができた。

## 2. オーガナイズドセッション

オーガナイズドセッションの提案は4件あり、初日午前と2日目終日の約1日半にわたって開催された。発表論文数は20件で提案者らが司会を務めるなど、活発な討論がなされた。以下にオーガナイズドセッションのテーマとその提案者を記す。

津波災害とその対策・指針（松富英夫）

東日本大震災における避難・対処行動（津波および東京の帰宅抑制問題）（市古太郎）

基盤施設・産業施設のシステム安全性評価と復旧早期化戦略（高田一、中村孝明）

東北地方太平洋沖地震および想定される巨大地震による強震動と地盤増幅特性の評価（山中浩明）

提案は日本地震工学会の調査研究委員会を中心になされたものである。いずれも東日本大震災に関連した内容であった。また、発表者ら責任者らの承諾を得て、オーガナイズドセッションに振り替えた論文もあった。

## 3. 一般セッション論文

一般セッションは平均3会場が並行し発表が進められた。カテゴリとして発表件数が最も多かったのが「耐震補強、構造物」で、初日から最終日まで連続して55件の発表がなされた。これまで耐震補強や構造物など構造物に関するカテゴリは、土木構造物と建築構造物に分類されていたが、昨年度より土木、建築といった垣根を越えて、いわば「ごちゃまぜ」に構成を変えている。鉄筋コンクリート造、鉄骨造といった部材の分類は継続している。なじみのないテーマをお願いした司会者もあり、苦笑を交えた苦情？もあったが、日本地震工学会ならではの発表会として、今後もこの「ごちゃまぜ」は継続していきたいところである。司会をされた方、若手優秀プレゼンテーション賞の審査をいただいた方にはこの場を借りて感謝申し上げる。

また、オーガナイズドセッションと共に発表が多かったのは東日本大震災関連の研究である。東日本大震災と銘打ったセッションでは15件の発表があり、そのほか、地盤と構造物の相互作用、地盤震動、社会問題、地下構造などでも関連の発表がなされた。

## 4. 懇親会

交流会は開催初日の17時30分よりカルチャー棟2階「レストランとき」にて開催した。実行委員会委員長の挨拶に続き、川島会長に乾杯の音頭をいただいた。参加者は、約50名であったが、例年通り様々な分野の方にご参加いただき各所で懇親と情報や意見の交換が行われ大変盛りあがるものとなった。また、国際シンポジウムに参加した海外留学生同士も交流の輪が広がり大変有意義な交流会となった。懇親会半ばでは、各分野からお話しをいただく時間を設け、飯場正紀氏（建築）、当麻純一氏（土木）、安田進氏（地盤）、大谷章仁氏（機械）から各分野の最近のトピックスなどを紹介いただいた。その後、国際シンポジウム参加者の2名の女子留学生から大変流暢な日本語でシンポジウム参加の感想等話をもらい、交流会の最後を伯野元彦名誉会員の挨拶で会を締めくくった。

## 5. 技術フェア

技術フェアは受付と休憩室を兼ねた310室において、

出展企業 10 社（勝島製作所、aLab（エーラボ）、ソフトテックス、ミットヨ、東京測振、アーク情報システム、白山工業、近計システム、明星電気、サイバネットシステム）により開催された。振動測定機器、ネットワークデータ収集システム、解析ソフトといった多岐にわたる内容で、参加者から多くの関心が寄せられていた。南海トラフを震源とする地震や首都直下地震の切迫性が指摘されている社会的状況に鑑みると、効果的な減災には振動計測や解析機器がより一層重要になってきている。

## 6. おわりに

以上、本年も昨年に引き続き地震工学を核とした広範な分野や視点からの地震防災として抜けのない、発表や討論が活発になされた。継続されている研究成果もたくさんあり、梗概集をお買い求めでない諸氏は、残りわずかであるが、残部も少しはあるようなので、ぜひお買い求めいただき、一読をお勧めする。

なお、今年から論文投稿のシステムが若干変更になり問い合わせも多く、投稿者の方々にご迷惑をおかけした。この場を借りてお詫びする。次年度からは改善され、不便も解消されるものと思われる。

また、受付と発表会場が離れていることが、この会場の不便の一つであり、参加者の皆様には昨年に引き続きご迷惑をおかけした。会場予約、使い方の要領もようやくわかってきており、再度この場所で開催される際には解消されるものと思われる。

最後になったが、経済状況が厳しい中にもかかわらず技術フェアに出展いただいた 10 社の方々には厚くお礼申し上げますとともに技術フェア開催当初より年々出展件数は増えており、各社からの本会に対する期待の大きさがうかがえる。このように地震防災に対する社会的な要請は大きく、その責任を本会は果たせねばならない。会員諸氏にはなお一層のご尽力をお願いしたい。

—大会実行委員会 2012—

実行委員長 五十田博（信州大）

副委員長 清野純史（京都大、国際シンポジウム担当）

実行委員 山中浩明（東工大、前年度実行委員長）、山

田哲（東工大、会場）、楠浩一（横国大、論文編集）、

古屋治（東京都市大、交流会）、石原直（建研、HP・

会場）、高橋典之（東大生研、論文編集）、丸山喜久（千

葉大、地震工学技術フェア）、荒木康弘（建研、会計）、

嶋原毅（事務局）



写真1 受付の様子



写真2 研究発表会の様子

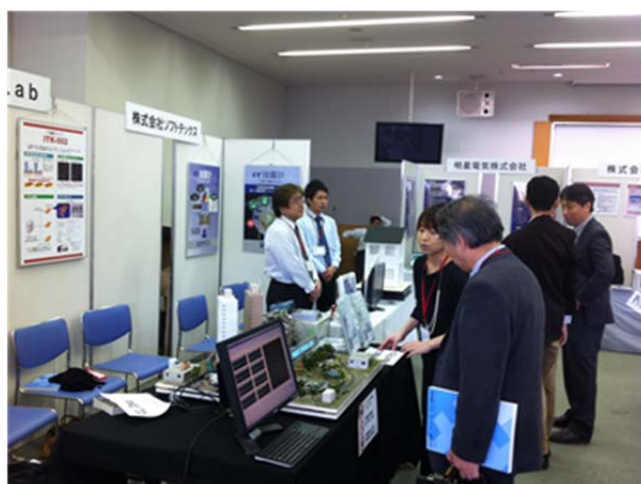


写真3 技術フェアの様子